

平成21年度 新聞記事等一覧 (9月分)

掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等
1	9月1日 日刊工業新聞	30面 植物工場の研究補助 千葉大など4校 関東経済局	東京農工大学が、関東経済局の先進的植物工場の研究開発拠点として管内の補助金交付先を決定した機関の1つとして紹介。	共生科学技術研究院 萩原 勲 教授
2	9月3日 BBC NEWS	web Robotic crayfish could save lives	東京農工大学石田准教授が、ハルム大学と協力し、水棲ロボットを開発したと紹介。	共生科学技術研究院 石田 寛 准教授
3	9月4日 十勝毎日新聞	1面 地球危機、農村再生で回避 東京農工大教授 千賀氏が講演	東京農工大学千賀教授が、帯広市内で行われた講演会「『農』の再定義と地域の再生 ドイツの地球危機対応に学ぶ」について、「ドイツの地球危機対応に学ぶ」を紹介。	共生科学技術研究院 千賀 裕太郎 教授
4	9月5日 読売新聞	28面 来春 国公立大入試のポイント	東京農工大学農学部が、AO(アドミッション・オフィス)入試を実施する大学・学部等の一覧表を紹介。	農学部 國見 裕久 農学部長
5	9月5日 日本農民新聞	1面 このひと 国産野菜競争力強化へ 民間の視点から生産・流通提言	東京農工大学濫澤教授が、青果物生産・流通研究会がとりまとめ、農林水産省に提言を行った「青果物の生産・流通に関する提言」について、ポイントを解説。	共生科学技術研究院 濫澤 栄 教授
6	9月5日 十勝毎日新聞	4面 農村にこそ可能性 「農業とは 地球危機打開を担う『地域総合事業』」 千賀 裕太郎教授講演	東京農工大学千賀教授が、帯広市内で行われた講演会「『農』の再定義と地域の再生 ドイツの地球危機対応に学ぶ」において、早くから土地利用計画を定め、景観を維持しながら農村振興を図ってきたドイツの事例を紹介し、日本の農村開発の方向性と農の再定義を提唱と、同講演会の内容を紹介。	共生科学技術研究院 千賀 裕太郎 教授
7	9月7日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略66 民主党とフラット化	東京農工大学林教授が、トーマス・フリードマンの「フラット化する世界」に置き換え、ITや移動手段の高度化により、世界は均質化し、同じものならより安く、早く作れるところに重心が移動する。与党も野党も国家を再生し、国民の幸せを目指している。民主、自民はお互い協力し、国益を意識してほしいと解説。	技術経営研究科 林 志行 教授
8	9月8日 日刊工業新聞	4面 製造現場で貴重な体験 東京農工大院生ら	東京農工大学の大学院生ら5人が、産学連携で協力協定を結ぶ西武信用金庫と共催で、地域の有力中小企業である3社を訪問し、モノづくり現場を見学したと紹介。	産官学連携・知的財産センター 千葉 一裕 産官学連携・知的財産センター長
9	9月9日 読売新聞	29面 「科学の祭典」13日小金井で	「青少年のための科学の祭典東京大会in小金井」が東京学芸大学で13日に開催される。東京農工大学等で作る実行委員会が企画し、今年で4回目と紹介。	
10	9月11日 科学新聞	8面 「日本主義」で持続的発展	東京農工大学柴田特任教授の著書「もうアメリカ人になろうとするな 脱アメリカ 21世紀型日本主義のすすめ」及びコメントを紹介。	共生科学技術研究院 柴田 治呂 特任教授(若手支援室支援室長)
11	9月13日 読売新聞	11面 文庫新書 「もうアメリカ人になろうとするな」柴田治呂著	東京農工大学柴田特任教授の著書「もうアメリカ人になろうとするな 脱アメリカ 21世紀型日本主義のすすめ」を紹介。	共生科学技術研究院 柴田 治呂 特任教授(若手支援室支援室長)
12	9月14日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略67 新型インフル、第2波への備え	東京農工大学林教授が、新政権には、「新型インフルエンザ」対応が最初の試練。弱毒生でも感染率が高く、7日から10日、社員の3分の1が休むとなると事態は異なり、自宅で作業する場合、事前に持ち出せる情報、報告タイミングなどを定めていないと、計画も絵に描いた餅となる。ただし、現場でのすり合わせを残し、差別化してきた日本のモノづくりでは、もう工夫が必要であると提案。	技術経営研究科 林 志行 教授
13	9月15日 読売新聞	12面 山中教授 ラスカール賞 米医学賞 ノーベル賞 受賞者多数	東京農工大学遠藤特別栄誉教授が、昨年度、初の臨床医学賞を受賞したと紹介。	遠藤 章 特別栄誉教授
14	9月18日 日刊工業新聞	29面 ブルーベリー収量拡大へ 東京農工大が植物工場	東京農工大学が、果樹工場のモデルとなるブルーベリーの試験研究施設を作る。経済産業省が支援する2009年度「先進的植物工場施設整備補助金」事業の一環で、「農工大ブルーベリーキャンパスファクトリー」(仮称)は都市型植物工場と紹介。	共生科学技術研究院 萩原 勲 教授
15	9月18日 毎日新聞	6面 写Now 犬……ではない 東京農工大に世界最小の馬3頭	東京農工大学「ミニホースの会」が、世界最小の馬、アメリカンミニチュアホース3頭を飼育していること。同会が故大野乾本学名誉博士の愛馬が夫人から寄贈されたことをきっかけに結成されたこと。地域のイベントなどに参加していることを紹介。	農学部 大野 乾 名誉博士 山本 龍一 氏(学生)

掲載年月日		媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等	
16	9月18日	読売新聞	5面	自由時在 白石 昌則さん 大学回り「生協へどうぞ」	東京農工大学広報大使の白石氏が、現在の勤務先での活動を紹介するとともに休日の活動を紹介。		白石 昌則 広報大使
17	9月21日	日刊工業新聞	3面	未来思考 経営戦略68 環境立国と日本のイニシアチブ	東京農工大学林教授が、鳩山総理大臣が国連総会の一般討論で演説する予定の内容をもとに、都市そのものが、自然と機械のハイブリッドにより、循環型社会を実現できるようなエコタウン、エココミュニティを想像することも可能。国境を越えた世界的なコンベンションも一計と提案。	技術経営研究科	林 志行 教授
18	9月25日	NHK総合	テレビ	ニュースウォッチ9	今年度補正予算の見直しに伴い国立大学の施設整備費が検討されていることに対し、東京農工大学の建物耐震補強工事の状況を紹介。		
19	9月25日	日本経済新聞	11面	学びのふるさと 人への「食わず嫌い」消えた 大学生協店長 白石 昌則さん	東京農工大学広報大使の白石氏が、「ひとことカード」への回答文章は、学生時代に過ごした大学寮での経験が生かされていると紹介。		白石 昌則 広報大使
20	9月28日	日刊工業新聞	5面	未来思考 経営戦略69 ホッケに学ぶ中小企業戦略	東京農工大学林教授が、ホッケ(魚)が渦を起しプランクトンを吸い寄せ捕食することを例えに、これまでの中小企業やベンチャー政策に対し、国家戦略局はほどよく渦(循環)を作り、適材適所で個性を発揮する中小企業向けのビジネスモデルの構築を期待と解説。	技術経営研究科	林 志行 教授
21	10月10日 (9月28日 発売)	週刊現代	15面	科学者です！ 美しい理系女子たち	東京農工大学山田特任准教授が、最先端分野の研究室で才能を発揮する女性科学者の特集で、研究内容とともに紹介。	共生科学技術研究院	山田 真実 特任准教授

追加記事等

掲載年月日		媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等	
1	8月11日	農機新聞	2面	農林省 農機の扱いも重要 第1回GAP共通基盤検討会開催	東京農工大学溢澤教授が座長を務める「農業生産工程管理(GAP)の共通の基盤づくりに関する検討会」の第1回会合が農林水産省内で開催されたと紹介。	共生科学技術研究院	溢澤 栄 教授
2	8月26日	日本農業新聞	1面	業務用野菜 産地拠点整備を 研究会が政策提言 流通経費低減も	東京農工大学溢澤教授が委員長を務める青果物生産・流通研究会は、業務・加工用野菜の振興に向けた政策提言を農林水産省に提出したこと、および、溢澤教授のコメントが掲載。	共生科学技術研究院	溢澤 栄 教授
3	8月27日	十勝毎日新聞	3面	欧州の環境農業政策に学ぶ 上 地域の概念と整備のあり方 計画的保全の政策欠如	東京農工大学千賀教授が、多くの日本の中山間地域の集落が、ここ数十年の間に消滅あるいは消滅の危機にある状況に対し、自然との共生に成功している欧州の事例を紹介し、農村地域の再生の在り方を解説。	共生科学技術研究院	千賀 裕太郎 教授
4	8月28日	科学新聞	3面	小さな磁石を作る磁性細菌のゲノム 東農工大とNITE解説 磁石合成の設計図 細菌間で受け渡し	東京農工大学新垣助教と独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)の研究グループが、小さな磁石を作る磁性細菌のゲノム解読に成功し、磁石を作る細菌に共通する遺伝子セットを明らかにしたと紹介。	共生科学技術研究院	新垣 篤史 助教
5	8月28日	十勝毎日新聞	3面	欧州の環境農業政策に学ぶ 中 欧州の地域整備 均衡ある発展へ法整備	東京農工大学千賀教授が、人間活動と自然環境との調和は人類永遠の課題だが、この半世紀における欧州の地域整備の展開はきわめて示唆に富むものであるとして、欧州における地域整備制度や財政・補助金制度を紹介。	共生科学技術研究院	千賀 裕太郎 教授
6	8月29日	十勝毎日新聞	3面	欧州の環境農業政策に学ぶ 下 ドイツの持続的農村の最新の姿 食糧と伴に再生エネ生産	東京農工大学千賀教授が、最新のドイツの農業農村環境情報を紹介するとともに、日本における農山村地域の活動を紹介。	共生科学技術研究院	千賀 裕太郎 教授